

第31回 かたの環境を考える委員会

概要

- ・日時：2012年1月10日（火）18:30～21:30
- ・場所：交野市役所 別館3階中会議室
- ・テーマ：環境基本計画推進組織の検討、先進事例研究ほか

進行・内容

（17:30-18:20 新しい仲間のオリエンテーション）

18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶

18:35 全体ガイダンスと本日の議題確認

18:37 交野市中田市長より、環境基本計画をどのように実現していきたいかについて

- ・環境基本計画を実施していくには、市のすべての部局に渡っての取組が必要だ。LAS-Eのように、庁内に横串を入れた体制が必要。職員も楽しみながら参加できるようにしたい。交野の唯一の誇りは環境であり、職員が職務だけでなく参加できるようにしたい。一人の100歩ではなく、みんなが少しずつ、笑顔で取り組めるような仕組みをつくっていききたい。交野のまちの良さは、汗をかいてくれる市民の力にある。この会議での議論をいい形で育てていきたい。
- ・12月4日の中間案発表会は、アイデアをこらして楽しみながらされていた発表だったと思う。環境を守ることはいろんな問題があるが、暮らしのなかで何をしていくのか考えることが大事だ。

（委員、職員より出された意見は以下のとおり）

委員：市民サービスとは、行政が市民に対して行うのではなく、市民が行政を応援することと捉えて活動してきた。市長は同じ想いを持っておられるのでうれしい。環境フェスタ、市民会議、環境を考える委員会、そこに4R市民会議も加えて両輪で活動できれば、環境活動はもっと強力になると思う。

市長：市民はそれぞれの思いを持って動いている。うまく動くように行政がサポートすることもできる。子どもときから環境教育を行うことが大事だ。市民の中でノウハウを持つ人が活躍できる仕組みづくりをしたい。

委員：市は予算をどう組むかで、市の本気度を表すと思う。ヒトとモノはよいが、カネも必要と考えていただきたい。

市長：2期8年はほとんど借金を返してきた。やっと少しは動けるようになってきた。職員も変わってきた。交野の環境に必要な資源の投入は考えていきたい。

委員：市職員が市民と一緒に考えていこうという姿勢が見えてきた。交野の環境を守ると



いう意識のある市民を増やしていく仕組みが必要だ。市民力と行政力の両方が必要だと思う。



委員：委員会には高校生も参加していた。意思のある市民が集まっている一方で、若い職員も育っていると思う。庁内でも、もっと情報公開をして多くの職員の方にこうした活動を知ってほしい。

市長：若い職員は市民の間に入っていきよくなってきた。役所の仕組みを変えながら、市民と交わって協働を理解できる職員を育てていく仕組みづくりが課題だ。

環境基本計画はすべての行政分野に関わる。生活のすべてが環境に関わっており、生活のすべてが行政に関わっている。行政の中で、こうした意識改革をしていきたい。すべての仕事は全体を見た上で動かすことだ。行政の仕事は暮らしそのもの。いかに守るか、私自身が直に職員に伝えていきたい。

環境市民、堀：職員が環境基本計画の中身を学んでいけるような研修はあるのか？

市長：職員研修は、職員だけで行うのではなく市民と議論しながらにしたい。東北でも、市町村で役所がしっかりしているところはちゃんと復興に向かっている。大事なものは暮らしを支えることだ。日本を守るのは市町村の職員だ。役所のすべきことを市民と学びたい。

職員：委員会のスタート時は、本当にやっていけるか不安だった。自分がコーディネータを務めるときは委員の皆さんに支えられてやり遂げることができた。やってきてよかったと思う。

市長：計画は形にとらわれず、みんなが望むものを出しながら考えていきたい。市民と協力し、次の時代を見てやれることはたくさんあると思う。ものをつくるのはつながりと仕組みだ。すばらしい市民の能力を引き出して、みんなが考えたことを役所も一緒にやりたい。若い人の方が交野を守りたい思いが強いと思う。知恵を働かせて、楽しく汗をかいて巻き込んでいきたい。

堀：広報は行政の役割が大きい。役所を上げて交野環境基本計画を広報してほしい。

委員：中間報告が出たが、市長のマニフェストと違うものもある。一人歩きをする可能性もあるが、それに対して市長はどのように考えておられるのか。

市長：意識を持ってみなさんが考えていただいた計画は、市の計画として動かしていくものだ。マニフェストと対立するものではない。

委員：行政は平等を求めるが、市民はできるところからやっていく。市民のそういうやり方を市は認めてほしい。みんながやるべきことを、あの人たちが先にやっているだけだと応援してほしい。

市長：役所のやり方だと物事が進みにくい。市民が動いて、役所はそれを支える形と考えたい。

19:30 パブリックコメントの実施について、全体を通して形式を整えたこと、指標の内容の変更点、環境フェスタの位置づけについて、環境保全課より説明

(出された意見は以下のとおり)

- ・ 指標と目標の2段落目、「見直されるとともに」ではなく、「見直されるにしたがって」や、「見直された場合には」にしてはどうか。
- ・ 指標、なお書きがあるが、最初の説明と重複しているのではないかと。
二酸化炭素の数値は今後大きく見直されるだろうと思われるので、なお書きとして、あえて記載している。

19:45 環境基本計画を推進していくための組織について、環境市民より事例を示した。

行政依存型：大体は行政が進める。多くの自治体はこの型。行政の責任は明確だが、市民の主体性は弱くなる。

独立型：独立したNPOがあり、NPOが実行していくことができる。基本計画を動かすための存在としてNPOをつくるが、後に、行政の補助金がカットされるなどの問題も起こる。

協働型：市民と行政が一緒になって進めていく。

いずれかの形をとっていくが、交野市にはどんな形がっているのか、生駒の事例を見ながら考えていただきたい。

19:55 新しく委員会に参加された6人の方の紹介をおこなった。

19:58 ロードマップの説明をおこなった。

計画書の骨子が定まり、パブリックコメントにかけられる状態にきている。今後は、計画書を仕上げしていく作業と、4月から計画を実際に動かしていくための準備を進めていく。



20:00 3月までの作業チームについて、「先行プロジェクト」「組織づくり」「計画書作成・PR」の3チームを提示し、説明をおこなった。

○先行プロジェクトチーム

目的・内容：プロジェクト推進の担い手育成のための講座づくり

- ・ 各分野のプロジェクトの順序・期間を考慮し、先行して何をすべきか検討する。
- ・ 講座に必要な内容を洗い出す。
- ・ いつから講座を始めるか、そのための段取り、スケジュール設定を行う

○組織づくりチーム

目的・内容：市の方針の下、具体的な推進組織のあり方を考え、基本的な設計図を作る。

- ・ 他のまちの事例を調査して、交野にふさわしい形を考える。必要に応じて、野洲市や豊中市などへの視察の企画を立てる。
- ・ 環境基本計画の推進に関わっていただきたい方々のリストアップ。
- ・ 立ち上げ時期の設定、そのための段取りなどのスケジュール設定を行う。
- ・ 4月から委員会に代わり新しく動ける体制を考える

○計画書作成・PRチーム

目的・内容：(1) 計画書の編集を行う。(2) 計画策定のPRを行う。

- ・ 計画書の内容を考え、必要な原稿を手配する。

- ・ 計画書の表紙、挿絵、その他の図版を手配する。
- ・ 計画策定を広く市民に PR するための戦略をつくり、段取りを行う。

20:20 グループワーク

新メンバーと懇談、作業チーム分け、計画書掲載図表・プロジェクト順の検討。

21:00 生駒市視察に向けて、事前学習

推進会議の設立までの経緯、基本計画を紹介する概要版の作成やプロジェクトごとの紹介パンフレットなどを紹介した。

- ・ 生駒市の環境基本計画は、原案から委員がつくった。4つの分野+分野を超えて取り組む1つの分野（人づくりのための講座、環境祭り）がある。基本計画に具体的なプロジェクトを盛り込み、別途に行動計画はつくっていない。
- ・ 計画が策定された後は、毎月2回の委員会を実施している。運営委員会の進行は委員がおこなっている。

（生駒市視察の際に質問する内容について意見を出し合った。）

保全課：生駒市には、具体的に視察したい場所や質問事項を決めて、伝えると話をしている。雨水タンクや農地など、具体的に動いている活動の現場を見ることもできる。

推進事務局は誰がいるのか？

元策定委員の人や、事務当番の緊急職員。対応してくださるのは、推進組織会長他。

収支報告書は見せてもらえるか？

毎年総会もあるので、決算報告書を出されている。

プロジェクトを具体的に推進する組織はどんな働きをしているのか、体制や人員配置等の仕組みについて。

生ごみの堆肥化について具体的なプロジェクトがあるのか？

動いているプロジェクトと動いていないプロジェクトの共通点について。

他のNPO等の団体とどう連携をとって活動しているのか？

挿絵は誰が描いたのか？

委員と職員によって描かれた。

他に、質問があれば、1月15日中に保全課まで送る。

21:27 3つの作業チームのメンバーの顔合わせをおこなった。

21:29 次回の生駒市訪問について、確認をおこなった。

1月26日（木）13:00に別館入り口に集合

21:30 終了

グループ議論の詳細

【エネルギーグループ】

1. 作業チームの役割分担を決定

- ・交野市の職員は課内で調整して決定する。

(出された意見は以下のとおり)

- ・計画書の PR については、計画書のお披露目会のようなものがあってもいい。



2. プロジェクト順と実施期間について

(出された意見は以下のとおり)

- ・それぞれ個別にできるプロジェクトだ。少ないメンバーでやろうと思えばそれぞれ一つずつやっていける。

・無理やりに3つのプロジェクトの関係図式を作らなくてもいいと思う。一つずつのプロジェクトにそれぞれ取りかかる方法と、最初は全体で行う環境学習プロジェクト(エコ達人)の中で、エネルギーを考える回を入れて、春にソーラーについて考え、夏には風をさがすツアー、秋にエコドライブを始めるなど3つのプロジェクトが交互に動いていくこともできる。

- ・それぞれのプロジェクトのタイムスケジュールがないと、どれも中ぶらりんになってしまわないか。

・すべてのプロジェクトでプロジェクトチームを立ち上げるのがスタートになっている。そのチームのなかで各プロジェクトの進め方を決めていくと思う。

・最初は啓発学習を広めていく、エコドライブの学習から始めてはどうか。できるプロジェクトから始め、徐々にメンバーが集まってくると思うが、エコドライブは、人も引っ張りやすく動きやすいプロジェクトだと思う。また、事業者のメンバーがでてくる可能性も考えられる。人数での成果もつかめやすいので、モチベーションがあがるのではないか。

・3つの中で、始めやすいのはエコドライブだと思う。ソーラーと風のプロジェクトはお金がかかる。できるプロジェクトから始めてそれを軌道にのせてから、他のプロジェクトを進めていくのはどうか。

結論)最初はエコドライブのプロジェクトからスタートさせ、ソーラープロジェクトと風のプロジェクトは流動的に進めていく。

【エコ生活グループ】

1. 作業チームの役割分担の決定

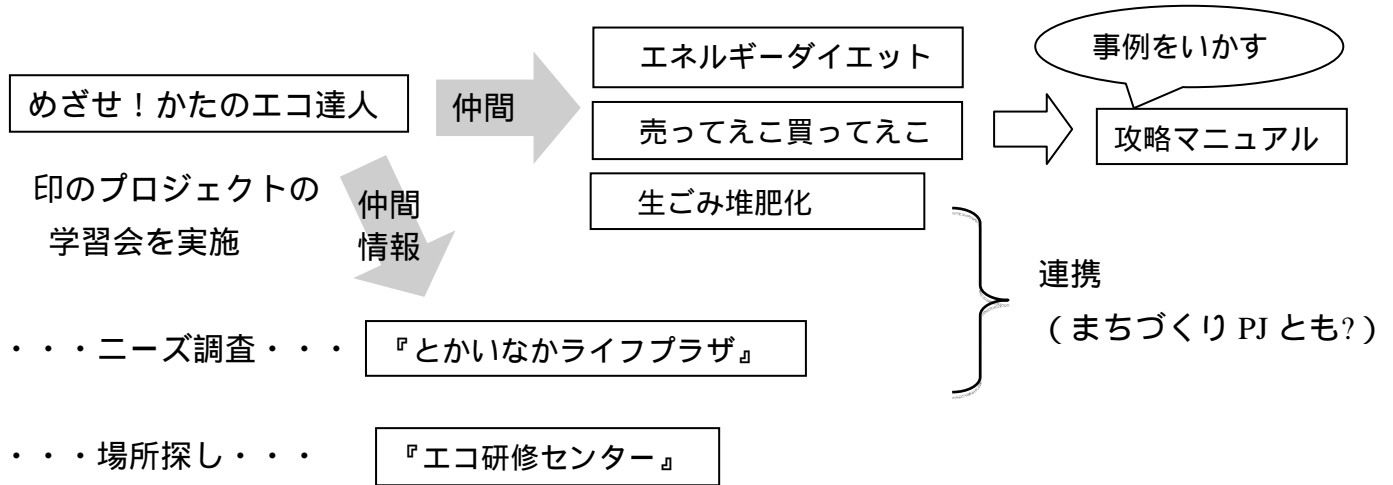
2. プロジェクト順と実施機関の設定

それぞれが考えたプロジェクトを実施段階においても担当し、一斉に進めていくのではないのか。



恐らく一斉には動かさない。1つのプロジェクトを現在のメンバーから最低2~3人+新メンバ

ーで実施していく予定。新メンバーを集めるため、講座などを実施して宣伝する。
 ○結果が出やすいプロジェクトから実施してはどうか。たとえば、『エネルギーダイエット』や『めざせ！かたのエコ達人』は評価が、講座の受講者数とわかりやすいし、結果がすぐに出る。



【まちづくりグループ】

1. 新しいメンバーとの交流

全員の自己紹介と、新メンバーのグループでの興味対象について話をした。

2. 作業チームの役割分担

(出された意見)

・組織づくりと先行プロジェクトは特に密接に繋がっていると思う。組織の形態によって、まず必要なプロジェクトも変わってくるのでは。

・3つの作業チームの共有の時間が重要となってくると感じる。縦割りになってはいけない。

・今の策定委員会を4月に改組してつなげてゆきたい。

・4月以降に、同じことを議論するような繰り返しにならないか。

(補足説明)

環境基本計画推進組織づくり

準備会が4月から動き出すためには、3月中に下ごしらえをしておく必要がある。

例)組織の形は？関わる人たちは？ 色々なところへの呼び掛けが必要

これを実行するための下ごしらえ・戦略作り

先行プロジェクト

計画全体の優先順位を考えて、どのようなプロジェクトにしていくか下ごしらえする。

3. プロジェクト順と実施期間の設定

<実施の考え方>

最初に取り組むべきものとしては、次のように考えた。

・「関心の高いもの」「人が集まる」

- ・「取り組みやすい・わかりやすい」
- ・「すでに何らかの形で実施されている」
- ・「結果(結実)・目に見える成果がでやすい」
- ・「複雑な調査を要するなど長期にわたるもの」

結論

最初に取り組むもの

- ・自転車マナー向上大作戦

そのあとに同時進行で

- ・誰もが利用しやすいバスを走らそう！
- ・地域ぐるみ エコ育て・親育て

続いて

- ・とかいなかで農業を！
- ・かたの満喫エコツアー

*「自転車の似合うまち・かたの」は、自転車マナー向上大作戦を実施するうちに機運が高まってきたころにスタートすると考える。



【自然環境保全グループ】

1.新しいメンバーの紹介

今回から、中間発表会に参加された方のうち3名が自然環境保全グループの仲間に加わったことを紹介した。

2.プロジェクトの改定

(1)「生きものいっぱい！豊かな川づくり」について、委員より提案のあった箇所について議論した。

第1段階に「2)川の清掃、河川敷への植栽、水辺の生きもの保全等を行う、河川保全活動団体相互の連絡、協調を目的としたネットワークをつくる。」を追加することとする。

「河川敷」や「河川保全活動団体」という言葉など、細かい表現については確認の上、パブコメ終了後の修正として盛り込む。

(2)その他のプロジェクトの修正については、現在のものを基本として、深めていくことができる。パブリックコメントが1月16日から始まる予定なので、それを見て委員会の場、あるいはパブコメの提出として意見を出していただければ、最終の修正の際に計画に盛り込むことができるので、新しく加わった方には意見をいただけるようお願いした。

3.作業チームの役割分担



2月からスタートする作業チームの役割について補足説明をし、役割分担をした。

4. プロジェクト順と実施期間の設定

里山保全のプロジェクトのうち、まず「里山を知ろう・里山大好きプロジェクト」から始める。進行状況に応じて、「実践！里山保全活動」と「山の持ち主と活動団体の縁結びプロジェクト」をからめつつ進めていく。「生きものいっぱい！豊かな川づくり」は、里山保全のプロジェクトが軌道に乗り余裕が生まれた時点で始める。

5. 計画書に掲載する図表の検討

中間発表会のために集めた写真、撮った写真を見直し、どのプロジェクトにどの写真を載せていくか次回に考える。必要なら新たに撮りに行く。歴史民俗資料展示室や図書館等で使わせてもらえるものがあれば探してみてもよい。

宿題：計画書に掲載する写真等について、見えそうなものを集め、アイデアを考えておくこと。

新しい仲間のオリエンテーション

日時：2012年1月10日（火） 17:30～18:20

参加：6名

- 17:30 趣旨説明
- 17:31 かたの・環境を考える委員会について
位置づけ、役割、任期、皆さんに期待すること
これからの予定（年度末までとその後の展望）
- 17:40 委員会参加の心構え
- 17:50 グループ・プロジェクト紹介
- 18:00 参加者の自己紹介
- 18:15 委員・事務局からのメッセージ
- 18:20 終了



かたの・環境を考える委員会について

かたの・環境を考える委員会は、環境基本計画策定のためにつくられた。任期は平成22年10月から24年3月。

環境基本計画をつくる意義：国や府は法律や条令に基づいてつくる。市町村にとって環境基本計画は任意計画。交野ではめざすまちづくりについて定める第4次総合計画「みんなの基本構想」に基づいていて、82項目の“かたのサイズ”を環境面からすすめようというもの。

策定方法・進め方：市民・事業者・行政が協議しながらつくる形を採用。そのメリットは、行政だけでは進めにくいことや、市民だけではうまくいかないことが、三者協働により相乗効果でうまく進めていけることがある。

任期は3月末までだが、次は計画を実行していく段階に入る。行政だけではなく、今の委員の皆さんも一緒に、発表会に来ていただいた皆さんも、今後の実行段階において関わっていただきたい。

委員会参加の心構え

これまで多くの都市では、行政の計画というのは、あらかじめ素案も会長も決まっている会議でつくられてきた。総花的で重点がわからず、誰がそれをするのか、目標がなんなのかもわかりにくい計画が多かった。交野では、実行力のある計画を三者協働でつくりたいという思いで、原案なしでスタートした。交野のよいところ、問題点を挙げて、その改善のためのプロジェクトを考えてきた。

いろんな人が関わっている。委員会の仲間は対等。市職員も交野市をよくしたいと思っている人。新しく加わる皆さんも対等。かしこまって参加する必要はない。普段着で来られる委員会。

対等な場だから、討論のルールが必要。「他人の話をよく“聴く”こと」「みんなの意見のよいところを発展させよう」。

環境基本計画（素案）

（前からざっと構成を見て、総合ビジョン、指標と目標を紹介）

「目標」は、この計画に載っているプロジェクトだけでは達成できないが、これらのプロジェクトを起爆剤に、市で様々な動きが起こる中で達成を目指す。

今からパブコメにかける。修正を加えて3月中に策定する予定。

グループ、プロジェクト紹介

1年半、学習、話し合い、フィールドワーク、2年目からグループに分かれてプロジェクトを議論し、発表会を行った。（プロジェクトについて、概略を駆け足で説明）

新しい方の自己紹介

委員と職員からのメッセージ

委員：今からが大詰め、これから多くの方の協力が必要。

委員：かたのは市民ががんばっているからいいところだ。

職員：計画ができてからが本番。

職員：みんな一緒にやりましょう！

委員：委員とは議論の蓄積のギャップがあるので、どんどん質問してほしい。

委員：計画ができたなら実際に動かしたいので力を貸してほしい。

委員：いろんな活躍の場がある。みんなの経験を出し合って協力しあおう。

委員：委員は頭が硬くなっているなので、やわらかい頭でアドバイスがほしい。

